



タウンサポーター

【発行】下都賀教育事務所 ふれあい学習課 栃木市神田町6-6 0282-23-3422 E-mail: shimotuga-kyouiku@pref.tochigi.jp



紹介します! コロナ禍における ふれあい学習に関する取組

新型コロナウイルス感染症の影響により、私たちの日常生活は一変しました。

しかし、何もできないから…とただ手をこまねているのではなく、今、自分たちにできることは何か、今だからこそ取り組むべき課題は何かを見据え、試行錯誤しながら前向きに活動されている方々の取組を紹介します。

家庭教育支援を継続して行うために

- *家庭教育学級や就学時健診時における講座の実施が難しいため、家庭教育のあり方について考えるための啓発リーフレットの作成や動画の配信。
- *家庭教育支援に携わる方々のファシリテーターとしてのスキルアップを目指す研修の実施。

密接を避け、安心して学べるようにするために

- *同内容の研修をDVDに録画し、別日・別会場で上映したり、同日・同会場で時間を変えて同内容の研修を複数回実施したりすることで、1回当たりの定員を減らし、参加者が安心して学べる場を提供。
- *「新しい生活様式」を取り入れた、3密を避けて実施可能なアイスブレイクや研修プログラム等の開発・提案。
- *公民館等における参加体験型の講座の実施が難しいため、人権について考えるための啓発リーフレットの作成。

子どもたちが安心して学校に通えるようにするために

- *地域ボランティアや保護者による放課後の校舎内消毒の実施。
- *ボランティアの方々が安心して作業に取り組みできるようにするための清掃・消毒ボランティア活動マニュアルの作成。
- *コロナ禍にあっても、これまでと変わることなく、子どもたちの安全を第一に考え、一緒に歩いたり、登下校時刻に合わせて外出（散歩・買い物等）したりすることで子どもたちを危険から守る登下校時の見守りボランティア。

青少年の地域活動の推進、郷土愛を育むために

- *まちの魅力を知ってもらうために高校生が作る、高校生が素敵だと感じるスポットや店舗を紹介したまちの『散策マップ』をリニューアル。最新版は、掲載されている店舗等で、近々お披露目予定。
- *中学生や青少年による地域活動に関する情報提供及び啓発を目的とした広報紙において、まちの魅力を再発見してもらうために、まちの自然や歴史、施設や祭り等の紹介記事を掲載。



人々が集い、これまで当たり前だと思っていた【ふれあい】が当たり前ではなくなってしまった昨今、「共に学ぶ楽しさ」や「人と関わり合うことの心地よさ」、「人とつながることの大切さ」を痛感された方がたくさんいらっしゃると思います。

しばらくは、With コロナの時代。人との距離（ソーシャルディスタンス）は確保しなければなりません、心の距離は近いままでいたいものです。

文化事業の紹介 『芸術家の派遣事業』



文化庁では、「文化芸術による子供の育成事業」を実施しています。

この事業には、優れた舞台芸術にふれる「巡回公演事業」と、芸術家を講師として派遣し、講話・実技披露・実技指導等を体験する「芸術家の派遣事業」があります。児童生徒が本物に触れることを通して文化芸術への関心を高めるとともに、豊かな情操を養うことができる素晴らしい内容で、どちらの事業も毎回好評をいただいています。

残念ながら、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のために、やむを得ず中止となった学校もありますが、6月8日（月）に下野市立吉田西小学校において、また、6月10日（水）に栃木市立静和小学校において、「芸術家の派遣事業」として和太鼓の出前授業が行われました。学校が再開されて間もない時期でしたが、子どもたちは、講師の説明を真剣に聴いたり、力強い演奏を堪能したりすることができました。また、講師や補助者の指導のもと、体全体で太鼓の響きを感じながら何度も何度も練習を繰り返して、日本の伝統音楽をより身近に感じることができたようです。

下都賀地区管内では、今後、たくさんの方々の小・中・義務教育学校で文化芸術による子供の育成事業が予定されています。



第2回 下都賀地区ふれあい学習推進会議

7月7日（火）に、第2回下都賀地区ふれあい学習推進会議（5月に予定していた1回目の会議は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止）を行いました。

前半は、壬生町教育委員会事務局生涯学習課 課長補佐兼社会教育主事の 高橋 唯拓 氏 から、壬生町における「放課後学習サポート事業」の事例紹介をしていただきました。この事業は、中学生が地域の学習支援ボランティアと関わりながら自主学習に取り組むことを通して、学力向上だけでなく、地域に支えられた自分を実感し自己肯定感を育てていくことをねらいとしていることや、学習支援ボランティアとして活躍されている地域の方々の熱い思い等を御紹介いただきました。

後半は「青少年の学びを地域が支える意義」について、定住意向の視点から充実した協議を行うことができました。



令和2年度 ふれあい学習推進委員の皆様

- ★ 松 山 美由紀 様
(壬生町社会教育委員の会議
壬生町地域学校協働活動推進事業実施委員会)
- ★ 大 塩 宗里 様
(下野市青少年育成市民会議・下野市社会教育委員会議)
- ★ 佐 藤 美 香 様 (小山市立小山城北小学校)
- ★ 山 岸 峻 也 様 (栃木県立栃木工業高等学校)
- ★ 高 橋 唯 拓 様 (壬生町教委生涯学習課)
- ★ 茂 田 佳 子 様 (野木町教委生涯学習課)
- ★ 五味田 明 里 様 (小山市教委生涯学習課)
- ★ 落 合 崇 様 (栃木市教委生涯学習課)
- ★ 漆 原 聡 様 (下野市教委生涯学習文化課)
- ★ 櫻 井 竜 彦 様 (栃木県立太平少年自然の家)

「ふれあい学習」は、子どもを核とした幅広い年代の人々との交流活動や体験活動、学習活動を指します。

ふれあい学習を通して、学校・家庭・地域が連携・協働し、子どもの「生きる力」を育むとともに、家庭と地域の教育力の向上を目指します。